

「未来基金」で地域活性化 協議会設置し住民の声生かす

皆川治市長の選挙公約の目玉である旧町村への各10億円規模の「地域まちづくり未来基金」が動き始めました。

住民の力引き出す

しかし、旧市内から「なぜ旧町村だけなのか」という声があり、基金の対象を市内全域に拡大して事業を展開することにしました。

平成30年度は旧町村での取り組みを先行させ、旧鶴岡市はその枠組みの検討を行うとして

この基金を活用して

地域活性化を図る「鶴岡市地域まちづくり未来事業検討会議」（会長・山口朗副市長）が13

日設置され、旧町村から自治組織と若手・子育て世代計10人の委員

（任期は2年間）が選出されました。従来の旧町村単位に

設置されている「地域振興懇談会」の意見をくみ上げ、検討会議はその全体会の位置づけとなります。

日本共産党の加藤鉦一議員は昨年12月議会一般質問で、「未来基金の活用に住民主体の協議会を設置し、市民の多くの声を集めて、まちづくりの住民の力を引き出せるようにすべきだ」と求めていました。

課題	事業名	事業費		30年度 事業内容
		H30	H29	
地域振興に関する懇談会の開催	地域振興懇談会運営事業	266万円	136万9千円	・地域振興懇談会を開催し、各地域の課題解決策や地域の活性化策について協議を進める。
	地域まちづくり未来事業検討会議	8万3千円		・地域まちづくり未来計画の内容や地域庁舎に関する具体的な制度の見直しを検討する。
地域まちづくり未来事業（藤島）	地域まちづくり未来事業（藤島）	4,990万8千円	503万7千円	・農業関連資源を活かした地域振興 186万3千円
				・土づくり推進事業（エコ有機機9-施設改修） 320万2千円
				・地産地消の推進（設備更新） 194万円
				・ふじの里づくりの推進 2,094万円
地域まちづくり未来事業（羽黒）	地域まちづくり未来事業（羽黒）	3,495万3千円	211万円	・総合交流促進施設（ほっほの湯）の充実 919万7千円
				・地域コミュニティ活動の強化と活動拠点の機能充実 751万円
				・小規模修繕事業（地域要望踏まえ施設設備等） 500万円
				・地域まちづくり未来事業計画の策定 26万6千円
地域まちづくり未来事業計画の推進	地域まちづくり未来事業（柳引）	5,589万7千円	211万円	・歴史的風致の維持向上（手向地区等） 1,370万7千円
				・松ヶ岡開墾場の歴史的価値の保存と活用による地域活性化 80万円
				・出羽三山地域の歴史文化の継承と発信 319万円
				・映画ロケ支援等観光連携による周遊・滞在型観光誘客の強化 458万円
地域まちづくり未来事業（朝日）	地域まちづくり未来事業（朝日）	2,955万円	617万4千円	・地域交通の充実（羽黒市営バスの更新） 460万円
				・耕畜連携農業の推進（堆肥製造施設の改修） 81万円
				・地域コミュニティ活動の強化と活動拠点の機能充実 200万円
				・小規模修繕事業（地域要望踏まえ施設設備等） 500万円
地域まちづくり未来事業（温海）	地域まちづくり未来事業（温海）	4,352万1千円	600万6千円	・地域まちづくり未来事業計画の策定 26万6千円
				・フルーツの里づくり 235万円
				・グリーンツーリズムと観光の推進 2,036万2千円
				・歴史・文化の里の推進 506万4千円
地域間の連携した取組の推進	地域間連携事業		200万円	・ケーブルテレビによる情報発信の安定化 560万円
				・地域コミュニティ活動の強化と活動拠点の機能充実 1,725万5千円
				・小規模修繕事業（地域要望踏まえ施設設備等） 500万円
				・地域まちづくり未来事業計画の策定 26万6千円
地域まちづくり未来事業 合計	地域まちづくり未来事業 合計	2億1,657万2千円	2,480万6千円	・山村生活文化の継承による地域づくり 112万円
				・山の恵みを生かした複合農業の推進 475万円
				・自然などの地域資源を生かした観光誘客の推進 1,541万4千円
				・地域コミュニティ活動の強化と活動拠点の機能充実 200万円
地域間の連携した取組の推進	地域間連携事業		200万円	・高度情報通信基盤の整備による情報伝達の迅速化 100万円
				・小規模修繕事業（地域要望踏まえ施設設備等） 500万円
				・地域まちづくり未来事業計画の策定 26万6千円
				・交流を核にした地域振興 945万5千円
地域まちづくり未来事業 合計	地域まちづくり未来事業 合計	2億1,657万2千円	2,480万6千円	・あつみ温泉の振興 2,340万円
				・地域コミュニティ活動の強化と活動拠点の機能充実 540万円
				・小規模修繕事業（地域要望踏まえ施設設備等） 500万円
				・地域まちづくり未来事業計画の策定 26万6千円

長沼温泉「ほっほの湯」奮闘記 ①

板垣久喜（長沼上新田）

長沼温泉の再開発、命名



自噴する。
平成10年、第3セクター設立準備会発足。
平成11年7月、ふじの里振興株式会社設立。
平成12年4月19日午後2時（ヨイクニ）、オープン。

「ほっほの湯」の命名

長沼温泉「ほっほの湯」オープンから18年経過し、「昔話」になるかもしれないませんが、民報藤島編集部からの依頼があり、断片的になります。温泉事業に取り組んだ記録を綴ってみました。

再開発推進委員会からオープンまで

オープンまでの経過を振り返れば、平成4年12月、長沼地区部落3役会議で、地域活性化のために先細り状態の温泉の再開発を町に働きかけることを決定した。
平成5年7月、温泉再開発利用研究委員会が発足。
平成6年、委員会による構想を策定。
平成7年、「ふじの里づくり計画」に、「長沼温泉再開発計画」として取り上げられ、組織も「長沼温泉再開発推進委員会」として整備された。
平成9年、施設整備事業費が予算化され源泉掘削が始まる。
平成10年1月、長沼2号源泉の掘削終了。



フロントに飾られている鍛金額

ある中国残留孤児の生涯⑩

新町 齋藤留治

着たきり人間の貧しい生活

昨年、毎日新聞やまがた版で「傷痕は消えない、満州と山形」というタイトルで、中国に残された孤児達が、祖国である日本に帰国を果たしながらも、貧困のどん底で暮らさざるをえなかった事を回想しておりました。

掲載された名前と写真に写っていたのは、私が偶然に話を聞く事が出来た高島町に住む佐藤安男さんでした。

民報に私（齋藤）は今まで佐藤安男さんの事をS男という匿名で寄稿してきましたが、個人バッシングを恐れ名前を伏せてきました（パソコンを開くととんでもない投稿が沢山目に付く）。

☆☆☆

さて、私（佐藤安男）は帰国後埼玉県の壁屋（多分左官屋）で働いて暮らしておりました。高島町に住む兄の勧めもあって、生まれ故郷の高島町で暮らすことになりました。

高島ではパン工場に雇ってもらったため親戚の紹介で面接に行ったところ、そこで「お前の妻は中国人だから3ヶ月間無給で見習い」と言われました。

なんで中国人だから無給なのか理解できなかったのですが、仕方が無く我慢をするしか

ありませんでした。

私達の給料は月8万円、昭和56年頃の日本でも子どもを含めて5人が生活することができ収入ではありませんでした。

幸いに長男は中学を卒業したので、無給ながら大工見習いとして働くことにはなりましたが、家賃、公共料金（電気他）等を払った残りは、いくばくも手元に残りません。

金が無いので、それこそ毎日漬物と味噌をご飯にかけて食べ、冬の暖房は灯油節約のため、手元にある服を何枚も重ね着して過しました。

妻が給料を貰う事になってから少しは楽になりましたが、それも長くは続きませんでした。

☆☆☆

（齋藤の中国よもやま話）今年の冬は異常



な寒さ、シベリア付近には零下45℃以下の塊がウヨウヨたむろをしている。

北京あたりでも零下20℃以下が当たり前だそうである。

暖房は灯油、でも決して安くはありません。中国で「どうやって暖かくすればよいか」と聞くと、「穿羽绒服吧。」

穿（せん）は着るという意味、ようは「ダウンジャケットを着れば」と言われるそうである。

もうひとつは「洗脚を」、（足を洗うのではなく「足湯」）。

それでもダメな人は「寒くネ」と、気合いを入れる事だそうである。

「働き方改革」法案を考へる③ — 残業代ゼロ法案（過労死法案）の問題 —

— 長時間労働・休憩時間や休日がなくなる —
— あらためて憲法を学ぶ — 青山崇

残業代ゼロ法案、場合によっては、過労死法案とも呼ばれる何が問題なのだろう。おもなものとしてつぎの3つが心配されている。
1つは、長時間労働の増加である。
残業代ゼロ法案が通った場合には、プロフエッショナル労働者は、
2つは、休憩時間がなくなる。
現在は、使用者は6

時間を超える労働に対しては45分、8時間を超える労働に対しては1時間の休憩を労働者に与える必要がある。しかし、残業代ゼロ法案が通れば、休憩時間を与える必要がなくなり、無制限に働かせることができることになるのである。
3つは休日がなくなる。

2014（平成26）年度調査によれば、雇用のうち10パーセントほどの人が月80時間



仲良き「よ」は良だ

平和の祭典は大いに盛り上がった。南と北は統一旗を持って入場アイスホッケーでは混合チームで臨み、仲良くすることに努めた。

▲これに大勢の応援団と共に、これまた大勢の芸術団が派遣された。世界中の注目を集めた。しかも、この公演は定員の百倍もの申し込みだったとの報道だ。

▲陰では別の駆け引きがあったようだ。開会式への日本の首相の出席。出ないも、目を合わせる事のない米と北。夜食会の席順などで文大統領は、大変に気を遣ったことであろう。

▲そんななかで、なんとか米と北とを近づけたい文大統領の思いが感じられた。安倍首相は、常に持っている日本本の思いを北に話したと報じられたが、手握って話したのだろうか

以上の時間外労働をしている。

月80時間は、俗に「過労死ライン」と呼ばれ、厚労省が定めている基準ほどの数値である。

このような過重労働が未だに蔓延しているのだから、成立したら労働はさらに過酷なものになることは間違いない。

実際、損保ジャパン日本興亜が法令で認められていない営業職に導入し是正指導が行われた。

か。眼も見ないで一方的な話だったろうか。

▲いつも言っている、話合いのための話し合いとの関係ではどうか。せつかくだから、近いうちに拉致されている方々を貰い受けに行きたいから・と言ったらナンテ思ったんだ。

▲なにしろこの人、南と北が仲良くなるのが気に食わないように見える。微笑み外交に気をつけると言っているし、早く共同演習を始めるようにと言っている、文大統領の反発を買っているとの報道だ。

▲文大統領には北から招待があり、これを喜んでいいるし、米だっって話し合いたいとあれば受けると言っている。日本だけ、態様が変わらないですか。

▲こっちの仲良しをどうしようってんだい。若者が早くしたいのに。一年も先延ばしでは可哀そうじゃないですか。